

令和6年8月20日

第74次 印旛地区教育研究集会  
道徳研究部 提案資料

## 研究主題

他者と共によりよく生きようとする児童の育成  
～多面的・多角的に考えるための話し合いの工夫～



成田市立成田小学校

## 目次

I	研究全体構想	1
II	研究主題について	2
III	めざす児童の姿	4
IV	研究の視点と具体的な手立て	4
V	研究を支える日常の取組	5
VI	実践	
	授業実践① 2年生	6
	授業実践② 3年生	11
	授業実践③ 5年生	16
	主な日常の取組① 『言の葉』	21
	主な日常の取組② 『図書委員による読み聞かせ』	22
	主な日常の取組③ 『話し方・聞き方の約束』	22
	主な日常の取組④ 『いいねの木・ハートポイント』	22
	主な日常の取組⑤ 『ふわふわ言葉・ちくちく言葉』	23
VII	研究の成果と課題	24

# I 研究全体構想

## 学校教育目標

**自主創造の精神に富む児童の育成**  
目指す児童像 ～やさしく・かしこく・たくましく生きる成小の子～  
＜やさしく＝豊かな心＞ ありがとうの言葉と気持ちを伝えられる子  
＜かしこく＝確かな学力＞ よく考え、問題を解決する子  
＜たくましく＝健やかな体＞ 力いっぱい運動したり、活動したりする子



## 研究主題

**他者と共によりよく生きようとする児童の育成**  
～多面的・多角的に考えるための話合いの工夫～



<b>道徳科をめざす児童の姿</b>
全学年
自分の考えをもち、友達のさまざまな考えのよさに気付き、自分の生き方をよりよくしようと考えを深める児童。



## 研究の視点

**ねらいとする道徳的価値を明確にした、話合い活動の充実と授業改善の工夫**

### 〈視点1〉

自分の思いや考えをもたせる方法

- ①取り扱う道徳的価値や目標の明確化
- ②道徳的価値について深く考えるための発問の工夫
- ③資料に適した指導方法の工夫

### 〈視点2〉

多様な見方や考え方に触れ、自分の考えを深める工夫

- ①対話や話合いの形態の工夫
- ②話合わせ方の工夫

## II 研究主題について

### 研究主題

他者と共によりよく生きようとする児童の育成  
～多面的・多角的に考えるための話合いの工夫～

#### 1 主題設定の理由

##### (1) 社会的要請から

高度な情報技術が進展し急速に変化する社会の中で、幅広い知識と柔軟な思考力に基づいて、自分はどう考えどう判断するかということが問われている。また、多様性が謳われ、既存の価値観の更新や新たな価値の受容が求められている今日、異なる文化や歴史を持つ人々と豊かにコミュニケーションを図りながら共存していかなければならない。学校現場においても、SNSの普及による児童同士のコミュニケーションの変化への対応、一人一台端末や生成AIの活用、校則の見直し等、これまでの常識にとらわれない変化への姿勢を問われている。こうした時代を生きる子ども達にとって、他者とのより良い関わり方を模索し、自身の生き方についてより深く考えることの重要性は、今後一層増してくる。

##### (2) 学習指導要領から

道徳科の目標は、以下の通りである。

第1章総則の第1の2の(2)に示す道徳教育の目標に基づき、よりよく生きるための基盤となる道徳性を養うため、道徳的諸価値についての理解を基に、自己を見つめ、物事を多面的・多角的に考え、自己の生き方について考えを深める学習を通して、道徳的な判断力、心情、実践的意欲と態度を育てる。

本校が研究主題に設定している「他者と共によりよく生きる」ことについて、平成25年12月の「道徳教育の充実に関する懇談会」報告で以下のように述べられている。(以下、一部抜粋)「道徳教育は、児童生徒が、人が互いに尊重し協働して社会を形作っていく上で共通に求められるルールやマナー、規範意識などを身に付けるとともに、人間としてより良く生きる上で大切なものとは何か、自分は人間としてどのように生きるべきかなどについて、時には悩み、葛藤しつつ、考えを深めていく」ことをねらいとしている。このことを通じ、自立した一人の人間として人生を他者とともにより良く生きる人格を形成することを目指すものである。

私たちは日々の生活の中で様々な問題に直面し、その度に選択を迫られる。それらの問題は、すぐに答えが出るものばかりではないし、正解といえる選択がない場面も往々にしてある。児童がそのような道徳的問題、課題に対応していくために、一人ひとりが道徳的価値と向き合い、多様な価値観に触れながらより深く考えようとする資質、能力を養うことが必要となってくる。そこで、本校では多面的(一つの道徳的価値について様々な視点から考え、とらえる)・多角的(一つの道徳的価値について、他の関連する価値と関連付けながら考える)に考える力を話合いを通して育成していきたい。

(3) 学校教育目標及びこれまでの取組から

本校の教育目標は以下のとおりである。

校訓 自主創造の精神に富む児童の育成

成果目標 児童の自尊感情育成に努める

「豊かな心 やさしく」「確かな学力 かしこく」「健やかな体 たくましく」

「豊かな心 やさしく」では、「心の豊かな児童を育てる。」ことを、「確かな学力 かしこく」では、「思考力・表現力・コミュニケーション能力の向上を目指す。」ことを、「健やかな体 たくましく」では、「児童の主体性を重んじた活動を展開する。」と重点項目の一つとして設定している。

本校で過去に研究してきた外国語科は、現在も全学年で取り組んでいる。子どもたちの豊かな人間関係を育むということはこれまでの実践で実証されてきた。豊かな人間性は、本校の研究テーマである他者と共に生きる児童の育成に欠くことのできない要素である。

道徳科の研究を通して、一人一人の児童が道徳的価値を自覚し、自己の生き方についての考えを深め、日常生活や様々な場面、状況において道徳的価値を実現するために適切な行動を選択し、実践する能力を育成していきたい。

(4) 研究の推移と児童の実態から

本校では、教育活動全体を通じて「児童が安心して学習に取り組める環境づくり」を意識して指導にあたっている。令和5年度は「自分の思いや考えを表現できる児童の育成」と研究主題を設定し実践を行った。児童の実態に応じてワークシートを作成したり、場面に応じてペアやグループ活動を意図的に設けたりすることで、学習の中で自分の思いや考えを整理し表現できるようにした。また、思考ツールやICT機器を活用することで、互いの考えを分かりやすく伝え合う児童の姿が見られるなど、話し合い活動の充実に結び付けることができた。

一方、道徳性を養うための学習過程について、課題が見られた。道徳的価値の理解を基に自己を見つめることができるように工夫し、様々な視点から物事を多面的・多角的に捉え自己の生き方についての考えを深めていくことができるように検討を進めている。

そこで令和6年度の道徳科の研究をするに先立ち、児童の実態調査を行った。結果は以下のとおりである。

調査日 令和6年5月 対象:2～6年生(計 485名)	そう 思う (%)	まあそ う思う (%)	あまり思 わな (%)	思わ ない (%)
① 道徳の時間は好きですか。	53	33	10	4
② 自分には、よいところがあると思いますか。	40	34	18	8
③ 成田小の友達には、よいところがあると思いますか。	90	8	1	1
④ 道徳の時間に自分の考えを持つことができますか。	60	31	6	3
⑤ 友達やクラスみんなに自分の考えを伝えてありますか。	38	36	22	4
⑥ 自分の経験を思い出しながら考えることができますか。	41	43	12	4
⑦ 友達の話聞くことに興味はありますか。	65	27	5	3
⑧ 友達の考えを聞いて「同じだ」「ちがう」と思うことはありますか。	71	22	4	3

⑨ 友達の考えを聞いて「なるほど」「いいな」「そういう考えあるな」などと思うことはありますか。	76	18	5	1
⑩ 自分ごととして考えていますか。	55	34	8	3
⑪ これからの自分はこうしたいと考えることはありますか。	54	31	11	4
⑫ 自分の課題や目標を見つけていますか。	45	40	10	5

全体として、道徳科の学習を肯定的に捉えており、学習を通して自分の考えをもったり、友達の考えを聞いたりしていると答えた児童が多かった。一方、自分のよさに気付いたり、自分の考えを上手く他者に伝えたりすることができていないと感じる児童が多いことが分かった。そこで、「ねらいとする道徳的価値を明確にし、話し合い活動の充実と授業改善の工夫」を研究の視点とし、本主題を設定した。

### Ⅲ めざす児童の姿

<b>道徳科のめざす児童の姿</b>
全学年
自分の考えをもち、友達のさまざまな考えのよさに気づき、自分の生き方をよりよくしようと考えを深める児童。

### Ⅳ 研究の視点と内容

<b>ねらいとする道徳的価値を明確にした、話し合い活動の充実と授業改善の工夫</b>
--

#### ＜視点1＞ 自分の思いや考えをもたせる方法

##### ①取り扱う道徳的価値や目標の明確化

- ・内容項目のどこにあたるのか
- ・教材でねらうのは何か

道徳的判断力、道徳的心情、道徳的実践意欲、道徳的態度

##### ②道徳的価値について深く考えるための発問の工夫

- ・中心発問と基本発問の組み合わせ方の吟味
- ・思いや考え、理由を引き出すための問い返しの吟味

【主人公の気持ちを問う（共感的発問）】○○は今、どんなことを考えているの？

【根拠・理由を問う（分析的発問）】○○がそうしたのなぜだろうか？

【自己置換させて問う（投影的発問）】自分が○○ならどうする？

【批判的に見る（批判的発問）】本当に○○なののでしょうか？ ○○した事をどう思う？

##### ③教材に適した指導方法の工夫

- ・登場人物への自我関与が中心の学習
- ・問題解決的な学習
- ・道徳的行為に関する体験的な学習

## ＜視点2＞ 多様な見方や考え方に触れ、自分の考えを深める工夫

### ① 対話や話し合いの形態の工夫

- ・ペアトーク（短時間、小さな発問の場面に活用、自分の考えがはっきりとする）
- ・グループトーク（少し長い時間をかける、中心発問など大きな問いを考える場面に活用、多様な考えに気付く）
- ・フリートーク（授業に動きを入れたい時、たくさんの人と意見交換をしたい時）
- ・全体（さらに多くの考えに出会い、自分の考えの再構築前に用いる）

### ② 話し合わせ方の工夫

- ・自分の考えを明確にしたり、友達の意見と比べたりすることで、自分の考えを深められるような思考ツールの活用（参考資料『シンキングツール～考えることを教えたい～』）
- ・ICT（タブレット等）の効果的な活用

## V 研究を支える日常の取り組み

### ○語彙を豊かにし、表現を高めるための取組

- ・暗唱（全校で毎朝『言の葉』として実施）、音読、視写などの反復練習により、語彙を豊かにしたり書くことへの意欲をもったり、技能を習得したりする。
- ・読書指導を充実させ、語彙を増やしたり感性や知識を磨いたりする。  
（成小読書の日として、教師や図書委員による読み聞かせの実施）

### ○話し合い活動の基礎的な姿勢を養うための取組

- ・教室掲示「話し方・聞き方の約束」の活用。

### ○道徳的心情を養うための取組

- ・いいねの木、ハートポイント（友達のよいところを見つけて掲示）
- ・ふわふわ言葉、ちくちく言葉の掲示。

## 授業実践① 2年生【友だちの気持ちになって「みほちゃんと、となりのせきのますだくん」】

### 1 主題名 友だちの気持ちになって B－(9) 友情、信頼

(教材名「みほちゃんと、となりのせきのますだくん」

出典「小学どうとく2 はばたこう明日へ」教育出版)

### 2 主題設定の理由

#### (1) ねらいとする道徳的価値について

本主題は、第1学年及び第2学年における内容項目B－(9)「友達と仲良くし、助け合うこと。」を深めることを意図したものである。これは、第3学年及び第4学年B－(9)「友達と互いに理解し、信頼し、助け合うこと。」、第5学年及び第6学年B－(10)「友達と互いに信頼し、学び合って友情を深め、異性についても理解しながら、人間関係を築いていくこと。」につながっている。

友達は、子どもたちにとって家族と並んで身近な存在だろう。その友達と良好な関係を築きながら日々の生活を送ることは、ともすれば学習よりも重要なことかもしれない。友情を育むためには、互いの気持ちを理解することが大切である。相手に対して自分の思いを適切な言葉や行動で伝えることができなければ、互いの言動で傷つけ合うことになってしまう。人は自分の言い分が正しいと思いがちだが、相手の立場になってみることで、自分の言い分の正しさやまちがいに気付くことがある。本教材の学習で、相手の立場になって考えることの大切さを理解してほしい。また、2学年児童の発達段階では、自分本位になってしまうことが多く、相手の立場や思い、行動を理解したり、自分との違いを受け入れたりすることが難しい。そこで、自分の気持ちだけで行動するのではなく、友達の気持ちや考えを理解しながらより良い関係を築いていくことの良さを感じさせたいと考え、本主題を設定した。

#### (2) 児童の実態について

本学級は活発な児童が多く、男女分け隔てなく関わり合うことで明るい雰囲気形成されている。誰かが困っているときには、進んで手助けをすることができる児童も多い。一方で、ルールを守れなかったり、授業中に誤答をしてしまったりした友達に対して、厳しい言葉を投げかけてしまう場面も多々見られる。学習に関しては、友達の考えを聞くことについては好意的に捉えている児童が多い反面、理解力や語彙力の不足から、自分の考えを書くことや友達に伝えることに対して苦手意識をもっている児童も非常に多い。また、日頃の道徳科の学習においても、読解力の乏しさから教材の内容理解に困難が見える児童も多い。

実態調査では、「どうしたら友達と仲良くできますか」という問いに対し、「たくさん話す」「一緒に遊ぶ」という回答が多かった。このことから、仲良くすることについて表面的にしか捉えられていない児童が多いことがわかる。また、「友達とけんかしたり、嫌な思いをしたりするのはどのような時ですか」という問いに対しては、「遊びのルールを守ってくれない」「嫌なことを言われる」「約束を守ってくれない」という回答が多く、全体の約7割ほどだった。自分の都合や思いが中心になってしまい、相手の立場や気持ちを理解できないことからトラブルになってしまうことが多いといえる。

これらのことから、本教材を通して相手の立場を考えて行動することの大切さに気付かせ、友達と良好な関係を築いていこうとする心情や態度を育てたい。

#### (3) 教材について

本教材は、クラスで隣の席に座っているみほちゃんとますだくん双方の視点から、学校でのできごとが描かれている。みほちゃんは、ますだくんがいじわるをしたり、暴力をふるってきたりすると感じ、学校に行きたくなくなってしまう。一方でますだくんは、頼りないみほちゃんの世話をしあげようと行動するが、裏目に出てしまい、拒否されてしまう。ある日、意地悪な気分になったますだくんが、みほちゃんの大切にしている鉛筆を投げたところ、歩いてきた友達が踏んでしま



い、折れてしまう。

みほちゃんも、ますだくんも自分の気持ちばかりが先行してしまい、相手の気持ちを考えて行動することができない。そのことが原因で、理解し合えずに衝突してしまう。これは、本学級の子もたちにとっても身近に感じられる問題だろう。児童は、同じできごとがそれぞれの立場から語られる本教材を読むことで、相手に正しく気持ちを伝えることや、互いを理解し合うことの大切さに気付くことができるのではないだろうか。

#### (4) 指導観

上記のことから、まずは教材に対する十分な内容理解の上で道徳的価値に迫るために、教材文を事前に読ませておく。家庭学習の音読課題や朝読書の時間に読む機会を設け、たっぷりと教材にふれさせておくことで、中心人物二人のとった行動や感じ方、気持ちについて児童が整理できるようにする。

次に、本教材の中心人物二人が仲良くできずに困っていることについて、それぞれの立場から原因を考えさせる。それぞれの抱えている問題点を明らかにすることで、どのように行動することが問題を解決し、仲良くすることにつながっていくのかを考えさせたい。また、ペアや小グループでの話し合いを取り入れ、自分とは違う考えに触れる場とする。どちらか一方の問題点にしか気付けない児童も、友達の意見を聞くことで、二人ともに問題があることに気付くのではないだろうか。中心発問では、二人が仲良くするためのアドバイスを考えさせる。児童によって、どちらの人物にアドバイスをするのか、人物のどのような問題点に焦点を当てるのかが違ってくるだろう。そこで、みほちゃんへのアドバイス、ますだくんへのアドバイスそれぞれを異なる色の付箋紙に書き、ワークシートに貼っていくことで、互いの考えを比較しやすくする。小グループでの話し合いや全体での話し合いを通して、多様な考え方に気づかせたい。

### 3 研究の視点との関連

#### <視点1> 自分の思いや考えをもたせる方法

- ・登場人物の関係やできごとの内容理解を促すために、事前に教材を読ませておく。
- ・立場による考え方の違いに気付かせるために、二人の主人公それぞれの問題点を問う。
- ・児童がより自分事として捉えられるように、二人にアドバイスを送るという形で改善点を考えさせる。

#### <視点2> 多様な見方や考え方に触れ、自分の考えを深める工夫

- ・自分とは違う考えに気付かせるために、小グループでの話し合いを行う。
- ・話し合いの際にそれぞれの考えを比較・分類しやすいように、異なる色の付箋紙に考えを書き、ワークシートに貼る活動を取り入れる。

### 4 本時の指導

#### (1) ねらい

みほちゃんとますだくんの二人が仲良くするためにどうしたらよいか考えることを通して、自分の思いだけでなく、友達の気持ちも考えて行動しようとする意欲と態度を育てる。

#### (2) 展開

過程 時配	学習活動と主たる発問・ 予想される児童の反応	○指導 ◎評価の視点	・支援 ☆手立て	資料
導入 3分	1 道徳的価値に対する方向付け ○友達と仲良くするにはどうすればいいですか。	○事前に児童からとったアンケートの回答を大型TVに表示する。		アンケート結果

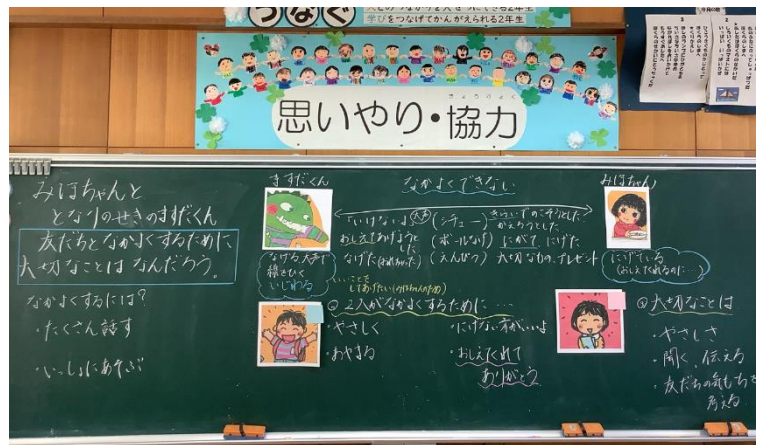
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・たくさん話す。</li> <li>・一緒に遊ぶ。</li> <li>・優しくする。</li> </ul>		
	友だちとなかよくするために大切なことはなんだろう。		
展開 7分	2 登場人物の関係やあらすじを確認する。	☆事前に読んだ内容を想起するよう促す。(視点1) ○二人の行動と気持ちに焦点を当て、同じできごとでもそれぞれの感じ方が違うことを押さえる。 ○どちらか一方だけが悪いのではなく、二人ともに問題があることを押さえる。	挿絵
5分	3 友達と仲良くするために大切なことについて話し合う。 ○みほちゃんとますだくんのよくなかったところはどこだろう。 (みほちゃん) <ul style="list-style-type: none"> <li>・給食をこっそり残そうとする。</li> <li>・勝手に学校から帰ろうとする。</li> <li>・嫌なことから逃げてばかりいる。</li> </ul> (ますだくん) <ul style="list-style-type: none"> <li>・にらんだり、いすを蹴ったりする。</li> <li>・鉛筆を投げた。</li> <li>・いじわるなことばかりする。</li> </ul>	☆二人の主人公それぞれの問題点を問う。(視点1) ○ますだくんの問題点ばかり挙がる場合、みほちゃんの行動をもう一度確認する。 ○全体での話合いの後に二人の行動の理由を問うことで、主発問につなげる。	
17分	◎二人が仲良くなるためには、どうしたらよいでしょう。 (みほちゃん) <ul style="list-style-type: none"> <li>・いやなことはいやって伝えた方がいいよ。</li> <li>・ますだくんの気持ちもわかってあげて。</li> </ul> (ますだくん) <ul style="list-style-type: none"> <li>・きちんと謝ったほうがいいよ。</li> <li>・いじわるはしちゃだめだよ。</li> <li>・優しく声をかけてあげてね。</li> </ul>	☆二人にアドバイスを送るという形で改善点を考える。(視点1) ☆小グループで話し合う。(視点2) ☆付箋紙に考えを書き、ワークシートに貼る。(視点2) ○ますだくんへのアドバイスに偏ることが考えられるので、みほちゃんがますだくんの思いに気付いていなかったことに言及する問い返しを用意する。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・どちらか一方へのアドバイスでも良いことを伝える。</li> <li>・グループの友達の意見でいいと思ったものは自分のワークシートに書き加えるよう促す。</li> </ul> ◎二人が仲良くするためにどうしたらよいか考えることができたか。	ワークシート 付箋

8分	○友達と仲良くするために大切なことはな んでしょう。 ・友達が嫌がることをしない。 ・相手の気持ちを考える。 ・自分の気持ちを優しく伝える。	○みほちゃんとますだくんのすれ違 いからわかったことは何か考える よう助言する。	
終末 5分	4 本時の振り返り ・ワークシートに本時の振り返りを書く。	○本時の学習を今後の生活に生かそ うという思いをもつことができる ように、「今までは、これから は、」というリード文を提示す る。	

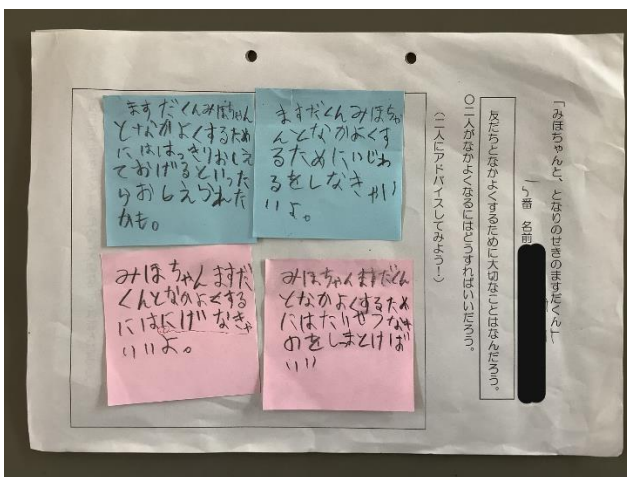
## 5 実際の授業の様子

### (1) 視点1との関わり

- ・事前に教材を読ませる機会を複数回設けておくことで内容理解が深まり、本時のねらいとなる道徳的価値に迫るための土台作りができた。
- ・それぞれの問題点を問うことで、同じ出来事でも立場によって感じ方や考え方が違うことに気付くことができた。また、板書で問題点を対比させていくことで中心発問に向けて児童の思考を整理することができた。



- ・2人にアドバイスを送るという形をとることで、児童にとっては「なかよくするために必要なこと」がイメージしやすくなり、普段は自分の考えをなかなか書くことができない児童も意欲的に取り組むことができ、また多くのアドバイスを書くことができた。

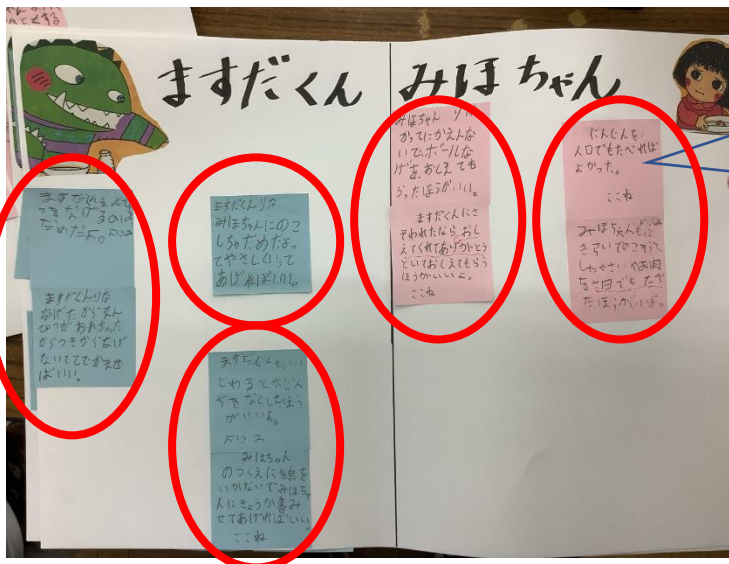


(2) 視点2との関わり

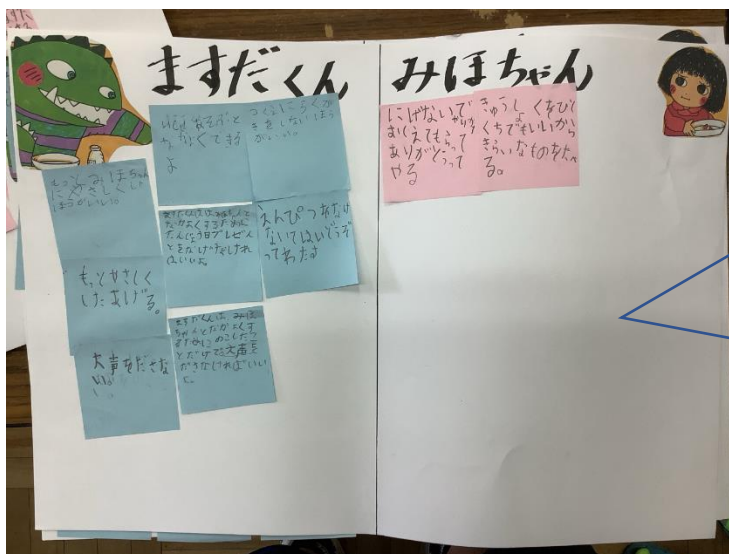
- ・小グループでの話し合いの際、付箋紙を指し示しながら議論する様子が見られた。低学年児童にとっては、友達の意見が視覚情報として手元にあることが話し合いのしやすさにつながった。



- ・付箋紙を提示しながら話し合いを行うことで、自分と違う意見、同じ意見、似た意見を児童が整理しながら考えることができた。また、みほちゃんへのアドバイスとますだくんへのアドバイスを色分けしたことで、それぞれの意見の量が見やすくなり、「ますだくんへのアドバイスばかりだね。」「みほちゃんにはアドバイスないかな。」といった発言、話し合いも生まれた。



似ているアドバイスを近くに貼り、比較、整理している。



意見の偏りが視覚的に捉えやすい。

「ますだくんへのアドバイスが多いね。」  
「みほちゃんにもなおさなければいけないところがあるんじゃないかな。」

## 授業実践② 3年生【自分のよさに気付き、のばす「エプロン」】

- 1 主題名 自分のよさに気付き、のばす A - (4) 個性の伸長  
(教材名「エプロン」出典 「小学どうとく3 はばたこう明日へ」教育出版)

### 2 主題設定の理由

#### (1) ねらいとする道徳的価値について

本主題は、学習指導要領の内容項目A「主として自分自身に関すること」の(4)「自分の特徴に気付き、長所を伸ばすこと。」に関する内容である。この内容項目である「個性の伸長」は、低学年「自分の特徴に気付くこと。」によって育まれている。さらに高学年では「自分の特徴を知って、短所を改め長所を伸ばすこと。」に発展していく。

中学年の段階において自分の特徴に気付くということは、自分の長所だけでなく短所についても気付くことであり、特徴を多面的に捉えることだと考える。その上で、自分の特徴である長所の部分をさらに伸ばしていきながら、自分の個性に気付くようにすることが大切である。そのためには、児童が視野を広げ、他の人々の多様な個性や生き方に触れ、あこがれや希望を抱けるようにしていく。そのような中で、自分の特徴に気付いたり、長所を伸ばしていこうと考えたりすることができるようにしたい。

指導に当たっては、友達など他者との交流の中で互いを認め合い、高め合える場を設定して、長所を伸ばそうとする意欲を引き出すことが大切であると考えます。

#### (2) 児童の実態について

実態調査の結果から、本学級の児童の多くは道徳の学習が好きと感じており、自分の考えをもって学習に取り組むことができている。また、道徳の時間に自分の経験を思い出しながら考えているか問うと、約7割の児童が経験を思い出しながら考えることができている。一方で、自分の考えを友達やクラスみんなに伝えていると答えた児童は約6割前後であった。友達の考えを聞くことに関しては、概ね好意的に捉えており、普段の授業からも共有の時間にいろいろな考えを聞いて、自分の考えを見直したり新たな考えに広げたりする姿が見られる。

本教材に関わる事前アンケートでは、自分には得意なことがあるかの問いに、ほとんどの児童が得意なことがあると答えた。一方で、自分にはよいところがあるかの問いでは、自覚していた児童もいたが、「わからない」や「よいところはない」と回答する児童もいた。

日常の取組として帰りの会で「となりの友達の素敵なところ」を伝えたり、「いろいろな場面(学習や生活など)で言われてうれしかったこと」を紹介し合う『ハートポイント』という活動を積み重ねたりしている。自分の短所ばかりが意識されるのではなく、友達からの言葉によって自分のことを肯定したり新たな発見につなげたりする姿が見られるようになった。

#### (3) 教材について

主人公の「いつき」は、体育のサッカーで「はると」からのパスにうまく反応できずボールをコートの外に出してしまう。いつきは、はるとのサッカーのように自分の得意なことって何だろうと考え始める。この場面では、いつきが自分の特徴を考えようとするきっかけになっていることを捉えさせる。その後の展開では、はるとがいつきの家に行くと、エプロン姿のいつきが出迎える。いつきが小さいころからケーキ作りをしてきたことを話すと、はるとから「ケーキ作りがいつきの特技なんだね。」と言われ、いつきに自分の良さの自覚が芽生えた。友達との関わりから自分の良さを知ることになった主人公の感じ方や考え方を通して、自分の特徴に気付き、自分の良さをどのように伸ばしていくことができるか考えさせたい。

#### (4) 指導観

上記のことから、本教材では導入時にアンケート結果を用いる。「自分のよさや特技は何か」の回答を共有し、本時の教材を身近な問題としてとらえることができるようにし、教材にスムーズに入れるようにしたい。

展開では、いつきの気持ちについて深く考え、児童から多様な意見が出るようにしたい。内容理解が十分でなければ、自分の考えをもつことは難しい。そのために場面絵を使った紙芝居を読み聞かせることで、教材の内容をじっくりと味わわせたい。中心発問では、主人公が自分のよさに気付いた時の心情について考える。自分自身がよさに気付いた時や周りの人から言われて分かった時のことを想起させながら、主人公の心情に迫らせる。一人一人がワークシートで考えを整理した後、ペア→フリートークの順で交流を展開していく。自分の考えと友達の考えを比較しながら聞き合うことで、多様な感じ方や考え方に接し、互いの考えに共感したり、対話したりしながら、多面的・多角的に考えることができるようにしたい。

終末では、本時を振り返り、改めて自分のよさとは何か、それを伸ばしていくにはどうすればよいか考える。教師の説話で「苦手なこともあったけれど、自分のよさに気付いてからは、〇〇して伸ばしてきた」と伝えることで、前向きな生活や自己肯定感の向上につなげていきたい。

### 3 研究の視点との関連

#### <視点1> 自分の思いや考えをもたせる方法

- ・教材内容の理解を十分にさせてから、自分の考えをもつことができるようにするために、紙芝居を使って範読をする。
- ・児童から多様な意見を引き出すことができるように、それぞれの場面で主人公の気持ちに迫ることができるように発問の工夫をする。

導入時→本時に関する問題意識をもたせたり、自分の立ち位置を確認させたりする発問

中心発問→主人公が何かに気付いた場面での共感的発問

#### <視点2> 多様な見方や考えに触れ、自分の考えを深める工夫

- ・多様な感じ方や考え方ができるようにするために、ペアからフリートーク、そして全体での話し合いへと展開する。

### 4 本時の指導

#### (1) ねらい

主人公が自分のよさに気付けた時の心情を考えることを通して、自分のよさを自覚してさらにはばしていこうとする実践意欲と態度を育てる。

#### (2) 展開

時配 (過程)	学習活動と主たる発問・ 予想される児童の反応	○指導 ・支援 ◎評価の視点 ☆手立て	資料
導入 5分	1 自分たちの実態を把握し、めあてを確認する。 ○ロイロノートでとったアンケートで、自分のよいところがあると答えた人は、どれくらいいるでしょう。 ○自分のよいところはどこですか。 ・元気なところ ・絵がうまい ・大きな声で返事ができること ○自分のよくないところはどこですか。 ・勉強が苦手 ・運動が苦手	○道徳科アンケートの結果を提示し、自分にはよいところがあるという児童の意見を確認する。 ○「よいところはない、または分からない」と答える児童に対して、共感する。そして、教材文の主人公も同じ気持ちであることを伝え、まずは教材文を読んでみる意欲を高めさせる。	ロイロノートのアンケート結果

		自分のよさは、何でしょう。	
展開 30分	2 教材を読み、あらすじを確認する。	○いつきの気持ちになって、問題意識をもちながら範読が聞けるような言葉がけをする。 ☆紙芝居を使って範読する。(視点1)	紙芝居
	3 教材「エプロン」について、話し合う。 ○はるとに「気にすることないよ。」と言われたあと、いつきはどのようなことを考えていたのでしょうか。 <b>【共感的発問】</b> ・はる君はいいなあ、サッカーが得意で。ぼくはだめだな。 ・ぼくの得意なことってなんだろう。あるのかな。	☆それぞれの場面で主人公の気持ちに迫ることができるように、発問を工夫する。(視点1) ○はるとの温かい言葉がきっかけに、自分を見つめ直すきっかけになった気持ちを想起させる。 ・「ハートポイント」を書いた活動を想起させ、自分のよさが見つからず悩んでいるいつきの気持ちに共感させる。	ワークシート 場面絵
	<u>○いつきはどのような気持ちでケーキ作りやエプロンのことをはるとに話しているのでしょうか。【共感的発問】</u> ・なんだ、ぼくにも良いところがあったぞ。 ・なんだ、ぼくにもよいところがあったぞ。 ・料理が得意だとわかったし、だんだんと自信がわいてきたぞ。 ・いつもやっていたことでも、自分の特技やよさって言っていいんだ。	○長所は誰にでもあることや、あたりまえのことでも続けていけば特技や自分のよさになるということに気付かせる。 ・はるとに話すいつきの表情が嬉しそうに見えることを確認し、気持ちを想像させる。 ☆ペア→フリートークで多様な考えにふれさせる。(視点2)	場面絵
<u>○笑顔のいつきに、あなたはどんな言葉をかけたいですか。【分析的発問】</u> ・いつきくんも良いところがあるよ。自信をもってね。 ・料理が得意なんてすごいね。これからもいろいろなおかしを作ってね。	○友達や家族、先生などからほめてもらった経験を思い出して気持ちを考えるよう助言する。 ・自分の体験として、得意なことが見つかった時の気持ちを想像させる。	場面絵	
終末 10分	4 本時の学習を振り返る。 ・自分のよさは○○だと思うから、これからももっと成長できるように努力していきたい。 ・友達に教えてもらって自分のよさが分かった。	○自分のよさを自覚してさらにのばしていこうと考えることができたか。 ○振り返りの視点を提示し、今までとこれからの自分について考えられるようにする。 ・自分の特技や良さが分かったかどうかについて振り返りをするように助言する。	振り返りの視点

## 5 実際の授業の様子

### (1) 視点1との関わり

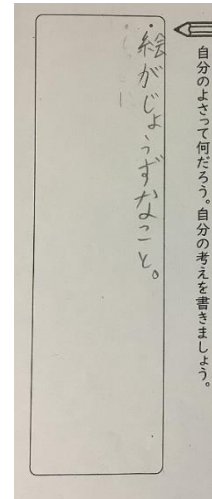
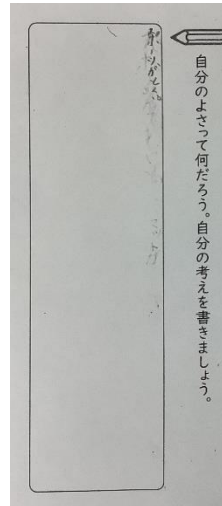
- ・同じ教材で発問を変えて、3クラスで授業を展開した。

<1回目 3年2組>

- ◎「いつきはどのような気持ちでケーキ作りやエプロンのことをはるとに話しているのでしょうか。」  
**【共感的発問】**
- 「笑顔のいつきは、どのようなことを考えているのでしょうか。」**【共感的発問】**

(児童の様子)

最後まで登場人物への自我関与で考えたため、最後に自分事として「自分のよさ」を考えるには、結び付きが難しい児童もいた。

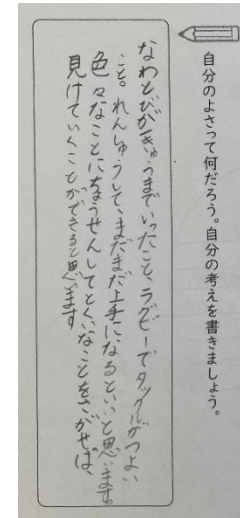
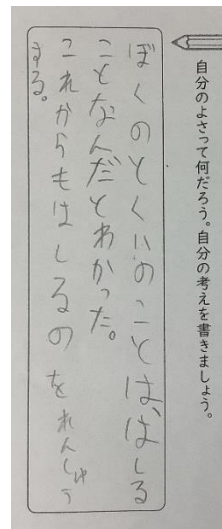


<2回目 3年3組> ※指導案

- ◎「いつきはどのような気持ちでケーキ作りやエプロンのことをはるとに話しているのでしょうか。」  
**【共感的発問】**
- 「笑顔のいつきに、あなたはどんな言葉をかけたいですか。」**【分析的発問】**

(児童の様子)

主人公に対しての言葉がけを考えたことで、自分の良さが見付かった時のことを思い出しながら、自分の良さについてもう一度考えることができた。しかし、自分の新たな良さに気付く児童は少なかった。

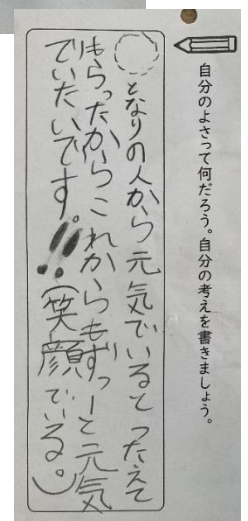
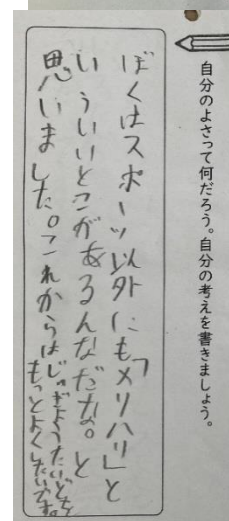
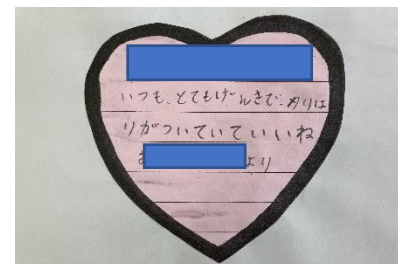


<3回目 3年1組>

- ◎「なぜいつきは、笑顔になることができたのだろう。」  
**【分析的発問】**
- 「友達からハートポイントを受け取り読んでみて、あらためて、自分のよさを考えてみましょう。」**【投影的発問】**

(児童の様子)

主人公が友達の言葉で良さに気付くことができた流れと同じ展開で授業を行った。友達から自分の良さを認めてもらう、新たに自分の良さを発見してもらう経験は、自己肯定感を高めることにもつながった。授業の振り返りでは、友達から教えてもらったことにも触れながら、自分のことについて考えを深めることができた。



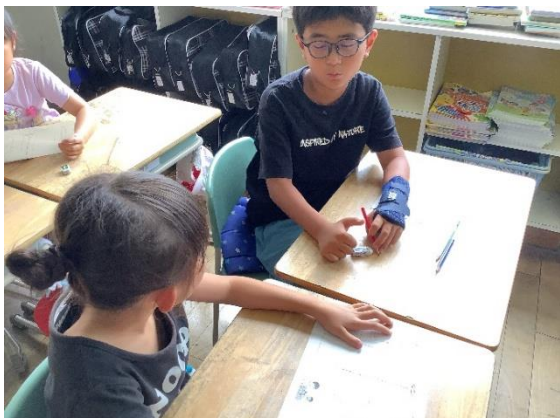


- ・紙芝居を使って教材を範読した。教科書を使って範読するよりも集中して話を聞く様子が見られたり、内容理解が深まったりしたことで、本時における道徳的価値を考える上での土台作りにつながった。



(2) 視点2との関わり

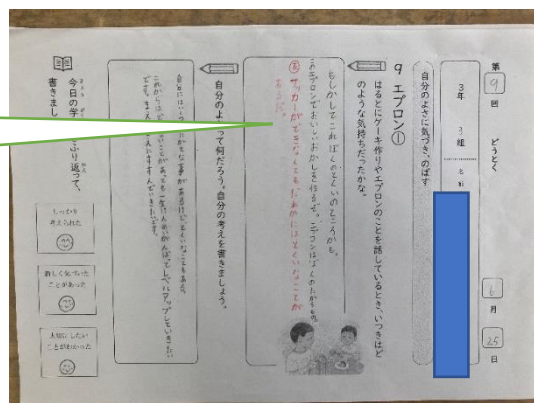
- ・個人で考えたあと、ペアトーク→フリートークでお互いの考えを伝え合う時間を設けた。フリートークでは、○人以上と交流する、○分間交流するなどした。自分と同じ、違う、似ているなどより多くの人のお話を聞くことで、多面的な考えに触れることができた。



- ・フリートーク後、考えを再構築する時間を設けた。

サッカーができなくても、だれかにはとくいなことがあるんだ。

友達と交流したことで、自分の考えに変容があったか考えることができた。また、友達の素敵な意見に気付くこともできた。



## 授業実践③ 5年生【自分の心に正直に「参考にするだけなら」】

1 主題名 自分の心に正直に A－(2) 正直、誠実  
(教材名「参考にするだけなら」 出典「小学道徳5 はばたこう明日へ」教育出版)

### 2 主題設定の理由

#### (1) ねらいとする道徳的価値について

本主題は、学習指導要領の内容項目A「主として自分自身に関すること」の(2)「誠実に、明るい心で生活すること。」に関する内容である。この内容項目である「正直、誠実」は、低学年「うそをついたりごまかしたりしないで、素直に伸び伸びと生活すること。」中学年「過ちは素直に改め、正直に明るい心で生活すること。」によって育まれている。

高学年の段階において、自分自身に対する誠実さがより一層求められる。特に、自分の内面を満たすだけでなく、他の人の受け止めに過度に意識することなく、自分自身に誠実に生きようとする気持ちが外に向けても発揮されるように配慮する必要がある。そのことが、より明るい心となって行動にも表れ、真面目さを前向きに受け止めた生活を大切にすることで自己を向上させることや自信につなげていきたい。

指導に当たっては、一人一人の誠実な生き方を大切にしながら、みんなと楽しい生活ができるようにしていくことが必要であると考え。一方で、良くないことと知りつつも自分の意に反して周囲に流されてしまうことや傍観者として過ごしてしまうことは、決して心地よいものではなく、後ろめたさから、自信を失ってしまうことにつながることを考えられるようにしていく。

#### (2) 児童の実態について

本学級の児童は、実態調査の結果から、道徳の学習を好きと感じている児童が多く、自分の考えをもつことができていることがわかる。しかし、「自分の考えを伝えていますか」という問いに対しては、伝えていない・あまり伝えていないと答えた児童が2割程いた。自分の考えをもっているのに伝えることのできない児童に自信をもたせるためには、話し合い活動の中で互いの考えを認め、認め合える雰囲気づくりが必要だと感じる。

本教材に関わる事前アンケートでは、「今までにうそやごまかしをしてしまったことはありますか」という問いに対して全員がはいと答えている。理由としては、怒られるのが嫌だった、冗談で言ってしまった、などの回答をしている。その後正直に話をした児童が5割、ごまかしたり、うそをつき続けたりした児童が5割という結果になった。うそやごまかしをしてしまった後の行動や、周りの人の気持ちについて考えさせていきたい。

#### (3) 教材について

本教材は、主人公の知子さんが夏休みの宿題の読書感想文を書くために、インターネットで見つけた感想文を参考にして書いたものを提出する。しかし、その感想文のできがよく、学校の代表作品に選ばれてしまった。知子さんはインターネットの感想文を半分以上書き写したことを言い出せずに悩んでしまうという話である。知子さんが正直に行動するチャンスは何回かあるのだが、正直に行動できない。一度犯してしまった過ちを認めることの難しさについて触れ、自分が知子さんだったら、この問題をどのように解決していくか考えさせたい。

#### (4) 指導観

上記のことから、本教材では、導入時にアンケート結果を提示して、学級の全員がうそやごまかしをしてしまったことがあり、その後の行動として、正直に話をした人と、そのままごまかした人がいることを確認する。児童が道徳的価値についての実態を把握し、課題意識をもって学習に取り組むことができるようにする。

展開では、登場人物の問題点について考え、その問題についてどのように解決していくかを話し

合う。中心発問では、自分が主人公なら問題をどう解決するかを考えさせる。うそをついてしまった後に、「正直に話す」か「正直に話さない」か心情メーターを使って自分の気持ちを視覚的に表すことができるようにする。そして、正直に話すときは、誰にどのタイミングで伝えるのかを、正直に話さないときは、なぜ話さないのか理由を考えさせる。その後、小グループ→全体へと話し合いを広げていくことで、たくさんの考えに触れ、自分の考えを深めていけるようにする。

終末では、教師の説話を聞き、うそやごまかしをせずに正直にしていることの大切さを再確認して、学習したことを今後の生活に生かしていくことができるようにする。

### 3 研究の視点との関連

#### <視点1> 自分の思いや考えをもたせる方法

- ・児童自身に現状を振り返らせるために、導入でアンケート結果をもとに問題解決的な学習を展開する。

#### <視点2> 多様な見方や考えに触れ、自分の考えを深める工夫

- ・自分の考えを深められるように、話し合い活動の際はグループトークから全体へと徐々に人数を増やしていく。
- ・自分の心の迷いを視覚的に表せるように、心情メーターを活用して考えさせる。

### 4 本時の指導

#### (1) ねらい

知子さんの行動や心情について話し合うことを通して、うそやごまかしをせずに正直でいることの大切さに気づき、正直に明るい心で生活しようとする判断力を育てる。

#### (2) 展開

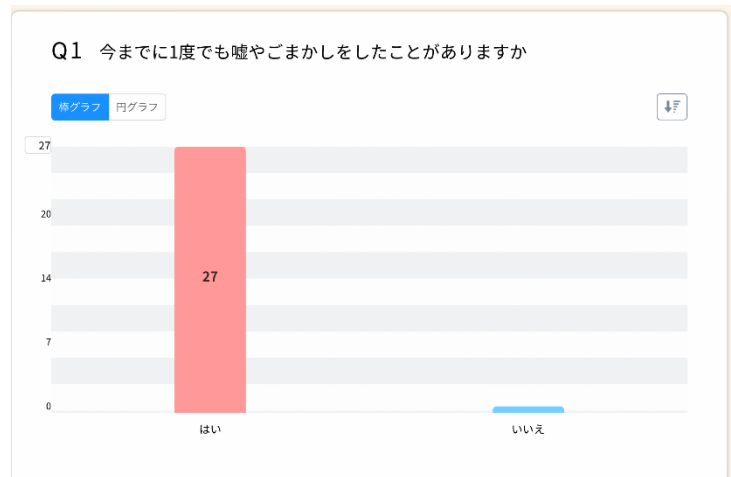
過程 時配	学習活動と主たる発問・ 予想される児童の反応	○指導 ◎評価の視点 ・支援 ☆手立て	資料
導入 10分	1 アンケート結果を提示して、価値について考える。 ○うそやごまかしをしてしまったことはありませんか。また、それはどんな時ですか。 ・宿題が終わっていないのに、終わったと言ってしまった。 ・物を壊したときに知らないと言ってしまった。 ○うそやごまかしをしてしまった後、どのような行動をとりましたか。 ・正直に話して謝った。 ・そのままごまかした。 ○正直な人とは、どんな人でしょうか。 ・うそをつかない人。 ・うそをついてしまっても、謝れる人。	○アンケート結果を提示して、うそやごまかしをしてしまったことがある児童が多いことを確認する。 ○うそをついた後、正直に話すことのできない児童が多いことを確認する。 ○正直な人について考えさせ、価値への方向性をつかませる。 ○いつでも正直に行動することは難しいことをおさえる。 ☆児童自身に現状を振り返らせるために、導入でアンケート結果をもとに問題解決的な学習を展開する。(視点1)	ロイロのアンケート結果
	正直に生きるとは、どんなことだろうか。		
展開	2 教材を読み、主人公の問題点について話し	○主人公の行動のどこが問題点か	場面絵

<p>30分</p> <p>合う。</p> <p>○知子さんの問題はどんなところでしょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・インターネットで検索してしまったこと。</li> <li>・インターネット上の読書感想文を書き写したこと。</li> <li>・誰にも正直に話さなかったこと。</li> </ul> <p>3 問題を解決するにはどうしたらいいのか、グループで話し合う。</p> <p>◎自分が知子さんならこの後どうしますか。</p> <p><b>【正直に言う】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・友達に相談する。</li> <li>・どうしたらいいのかわからないから親に相談する。</li> <li>・怒られそうだけど、そのままはよくないから先生に正直に話す。</li> </ul> <p><b>【ごまかす】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・誰にも言わないで黙っておく。</li> <li>・正直に言うと怒られそうだからごまかす。</li> </ul> <p>○正直に生きていくために、これからどうしますか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・うそはつかない。</li> <li>・うそをついてしまったら、正直に話す。</li> <li>・話しやすい人に相談する。</li> </ul> <p>終末 5分</p>	<p>を意識しながら範読を聞くように伝える。</p> <p>○正直に言えなかったことで苦しんでいることを理解させる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・読書感想文が高い評価を受けているのに、知子さんが嬉しそうではないのはなぜか想像させる。</li> </ul> <p>○自分の立場が明確になるように、ネームプレートを黒板に貼らせる。</p> <p>○自分の立場に置き換えて正直に話すか、話さないかを考えるだけでなく、その後どうなるのかまで考えさせる。</p> <p>○心情メーターの数値についての理由を考えさせる。</p> <p>☆自分の心の迷いを視覚的に表せるように、心情メーターを活用して考えさせる。(視点2)</p> <p>☆自分の考えを深められるように、話し合い活動の際はグループトークから全体へと徐々に人数を増やしていく。(視点2)</p> <p>○話し合いの後、もう一度ネームプレートを黒板に貼り、変容した理由を考えさせる。</p> <p>○著作権があることを伝え、少しの量であっても罪になることにふれる。</p> <p>◎うそやごまかしをせずに正直でいることの大切さに気づき、正直に明るい心で生活しようとすることができたか。</p> <p>○正直に生きることでどんないいことがあるのか考えさせる。</p>	<p>ワークシート</p> <p>ネームプレート タブレット 心情メーター ワークシート</p>
---	--	--

## 5 授業の実際の様子

### (1) 視点1との関わり

- ロイロノートで行った実態調査の結果を導入で提示した。価値への方向付けを行うとともに、教材への関心を高める効果もあった。また、授業の終盤でもう一度調査結果に立ち返らせることで、正直であることの難しさやよさを考え直す機会にもなった。

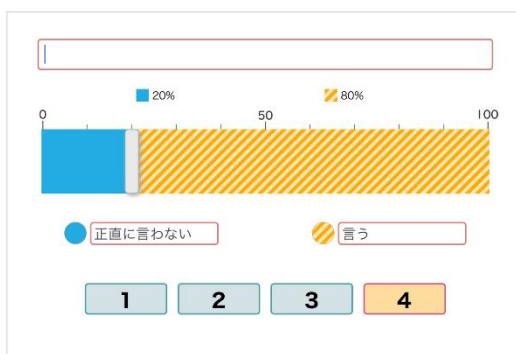


### (2) 視点2との関わり

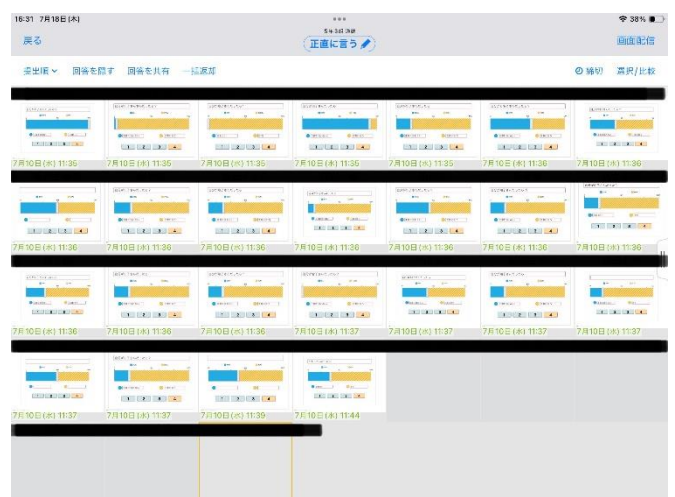
- 小グループでの話し合いでは、タブレット端末で心情メーターを提示しながら考えを伝えた。聞き手は自分の心情メーター（考え）との比較がしやすく、話し手にとっても考えをわかりやすく伝えるための助けとなった。



- 心情メーターを使用することで、正直に「言う」「言わない」の二択ではなく、児童の心の迷いを表現することができた。ロイロノートの提出箱を共有することで、自分の班以外の児童の考えにも触れることができた。また、迷いが可視化されることで「なぜそう考えたのか？」という話し合いが生まれた。



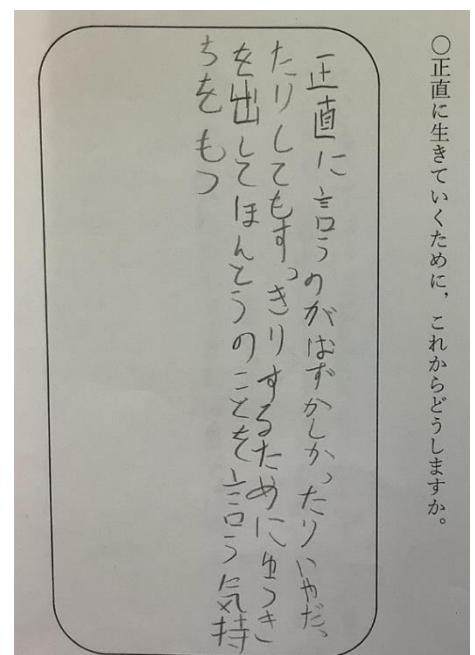
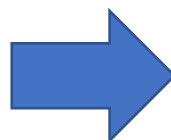
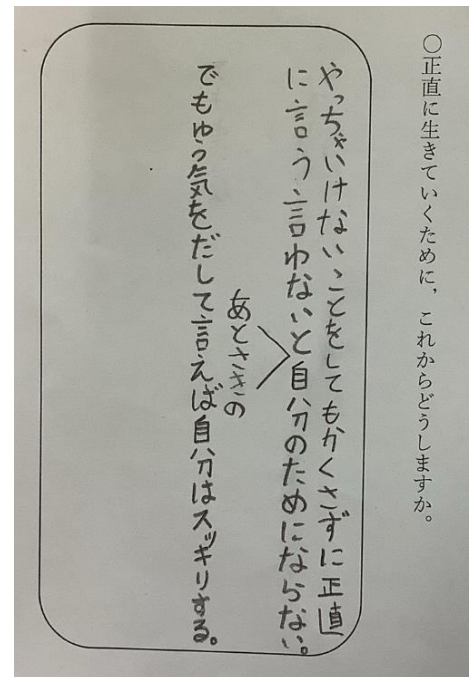
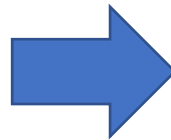
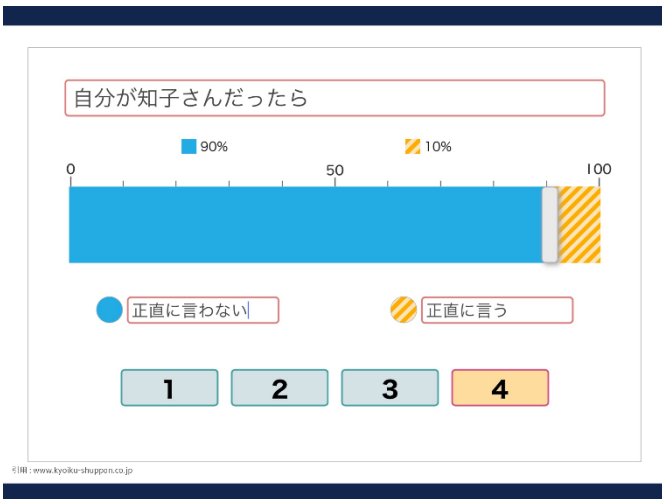
引用：www.kyoika-shuppan.co.jp



- ・全体での話し合いの場でも、黒板掲示の心情メーターで自分の考えを示した。視覚化されることで、自分と近い考えや異なる考えが把握しやすく、考えを深めるきっかけとなった。



- ・「正直に言わない」と考えていた児童が、話し合いの後に正直であることの良さに気付いた記述をしている。



## 主な日常の取組① 毎朝の論語の暗唱『言の葉』

令和4年度 作品の一部

低学年	中学年	高学年
たけのこ ぐん 武鹿悦子	吾輩は猫である(冒頭部分)	五十音 北原白秋
あめ まど・みちお	夏目漱石	椰子の実 島崎藤村
なまけ忍者 荘司武	お祭り 北原白秋	野の花 高丸もと子
ぎつねのおきやくさま(一部)	水のこころ 高田敏子	山みちのうた 宮沢章二
あまんきみこ	どろぼう小唄 柳亭燕路	遠き山に日は落ちて 堀内敬三
七草	よいしょがいっぱい 工藤直子	その人 相田みつお
なわとび 芦村公博	五十音 北原白秋	新しき年の～ 大伴家持
うめの花 宮沢章二	雨ニモマケズ 宮沢賢治	

令和5年度 全校のテーマと作品

月	テーマ	月	低学年	中学年	高学年
4月	春・スタート	4	くまさん まど・みちお	へたたけど 新川和江	支度 黒田 三郎
5月	梅雨	5	雨のうた 鶴見正夫	あめ 山田今次	春の雨 高田敏子
6月	俳句	6	菜の花や～ 与謝蕪村	ひっぱれる糸～ 高野素十	暑き日を～ 松尾芭蕉
7月	夏		古池や～ 松尾芭蕉	夏河や～ 与謝蕪村	分け入っても～ 種田山頭火
9月	運動会・スポーツの秋	7	大空のうた 渋谷重夫	わたぐもよ うみひろみ(工藤直子)	夏の思い出 中田喜直
10月	達成感が得られるもの	9	勇氣100% 松井五郎	扉 GReeeeN	スポーツ<走る> 鶴見正夫
11月	読書の秋・〇〇の秋	10	論語 子曰く～	ただいだけで 相田みつお	はやくちことば 有馬敲
12月	友達(人)				
1月	短歌				
2月	冬・雪				
3月	卒業・お別れ				

令和6年度 全校のテーマと作品

主な行事		
月		行事
4月	論語を中心 色々な言葉の暗唱 に取り組む。	入学式・1.6交流遠足 学年交流・参観
5月		1年生を迎える会 美化活動・陸上大会
6月	低学年は「論語、わ らべ歌、歌唱、俳 句、短歌、てまり 歌」	参観
7月		大掃除・個別面談 夏休みを迎える式 不審者対応訓練
9月		学校始まりの式・成フェス
10月	高学年は「論語、落 語、百人一首、(短 歌)、漢詩、名文・ 名詩(×現代詩で ない)、随筆」の選 定」	運動会・二部会音楽祭
11月		マラソン大会
12月		書き初め練習会・冬休みを 迎える式
1月		新年を迎える式・参観
2月		あいがとうの会
3月		卒業・修了式・離任式

<低学年>		
月	作品	担当学年
5	論語：子曰く、「義を見てせざるは勇なきなり」	1年
6	俳句：「五月雨 集めて早し 最上川」 松尾芭蕉 「梅雨晴れや ところどころに 蟻の道」 正岡子規	2年
7	論語：子曰く、「故きを 温ねて 新しきを知る 以って師たるべし」	3年
9	秋の七草 「秋の野に 咲たる花を およびをり・・・」	たけのこ
10	論語：子曰く、「徳は孤ならず 必ず 隣あり」	1年
<高学年>		
月	作品	担当学年
5	論語：「知者は惑わず、仁者は憂えず、勇者は懼れず。」 知仁勇	4年
6	中国古典：「井の中の蛙大海を知らず・・・」 原文	5年
7	名詩：「われは草なり」 高見順	6年
9	論語：「子貢問いて曰わく、一言にして以て終身・・・」	4年
10	俳句：「あきみと めにはさやかに見えねども 風のそとにぞおどろかれぬ」 藤原歌行朝臣 「銀も金も玉も何せむに 勝れる宝子に及かぬやも」 山上憶良	4年

- ・全校統一で月ごとのテーマを設定し、低・中・高学年ごとに作品を決めた。朝の会の時間に、毎日暗唱している。

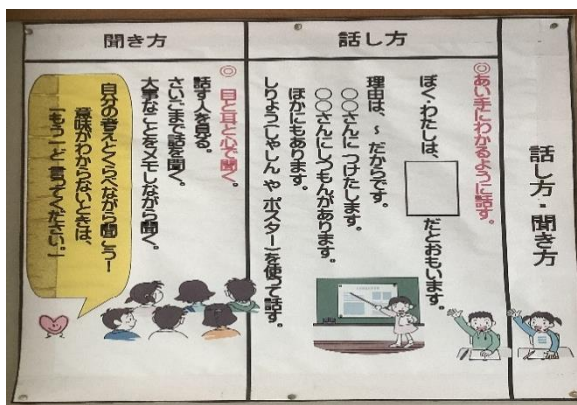
## 主な日常の取組② 図書委員による読み聞かせの実施（成小読書の日）

- ・読書指導を充実させ、語彙を増やしたり感性や知識を磨いたりする。



## 主な日常の取組③ 教室掲示「話し方・聞き方の約束」

教室掲示



話している人のほうを見て話しを聞く様子



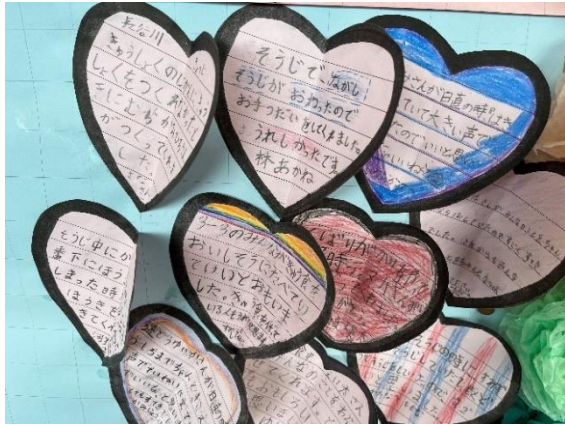
## 主な日常の取組④ いいねの木・ハートポイント（友達のよいところを見つけて掲示）

- ・生活委員会が実施している「いいねの木」学校生活の中で友達ががんばっていたことや、良くしてもらったことなどを書いて掲示している。全校で共有できるように昼の放送で紹介もしている。





- ・ 中学年で取り組んでいる「ハートポイント」  
「授業」「休み時間」「給食・係活動」「その他（習い事や放課後等）」の場面で、自分のハート（心）がほっこりしたことやうれしかったことをカードに書いている。この活動を始めたことで、友達の良さに気付く目が育ち前向きな言葉がけが多く聞かれるようになった。



**主な日常の取組⑤ ふわふわ言葉・ちくちく言葉**

- ・ 児童が目にする場所に掲示。会話の中で何気なく使いそうな言葉を集め、言ってもらえるとうれしい「ふわふわ言葉」、言われると悲しい「ちくちく言葉」をまとめた。児童からも「それはちくちく言葉だよ。」という声も聞かれ、日々の生活の中で意識が高まってきている。



## Ⅶ 研究の成果（○）と課題（●）

### 1 視点1

- 取り扱う道徳的価値や目標を明確に設定したことで、「どこの場面で」「どのような言葉で」中心発問をしてねらいに迫るのか整理され、指導者も児童も「何について考えればよいか。」を念頭に置いて学習に取り組むことができた。
- 低学年では、登場人物へアドバイスを送るという形で自分の考えを書かせた。特に1年生は国語科の学習「先生、あのね」と同じ書き出しにすることで、自分の考えをすらすらと書く姿が見られた。自分の考えをしっかりと見つことで、友達との交流でも自信をもって自分の考えを伝えることにもつながった。
- 教材を事前に読ませておいたり、範読の際に紙芝居を用いたりしたことで、教材内容を十分に理解した状態で学習に入ることができた。
- 自分の思いや考え、理由を明確にできなかった児童もいることから、ねらいに深く関わる中心発問やそれを生かす前後の基本発問については、さらなる工夫が必要である。
- 児童の考えに対し、問い返したり切り返したりすることに課題が残った。児童の思考をゆさぶることで、考えを深めたり広げたりすることの効果期待できるため、さらなる研究が必要であると考える。

### 2 視点2

- 「心情メーター」や「座標軸」、「異なる色の付箋に書いた意見を集約する」など、自分の立場を明確にするツールを活用したことで、思考を整理することができた。
- タブレットを用いて、ロイロノートの共有ノートの機能を利用し、友達の見えたり聞いたりするなど他者との交流が活発化し、積極的に自分の考えを伝えたり、考えを広げたりすることができるようになった。
- 児童の実態や教材に適した話し合い活動（ペア、グループ、全体、フリー）を行ったことで、多くの人の意見に耳を傾けたり、聞いた意見から自分の考えを再構築したりする意欲を高めることができた。
- 思考を深めるための方法を教師が適切に見極め、思考ツールの活用やタブレットの利用など、今後も身に付けさせたい力や学習内容に適した深め方を経験させていく必要がある。
- 交流の場が聞くだけになっている場面も見受けられた。友達の見えについてどう思うのか、どう感じたかなど、一言でも返すことを繰り返して行くことで、交流に深まりがでると考える。

### 3 研究を支える日常の取組

- 論語の暗唱を継続して行ったことで、日本語の独特なリズムや響きを味わい、豊かな言語感覚を養ったり日本の文化に触れたりさせることができた。言語は知的活動の基盤であるとともに、コミュニケーションや感性・情緒の基盤であるため、今後も継続して続けていき児童の言葉に対する感覚を育てていきたい。
- 「いいねの木」「ハートポイント」の活動では、児童同士で良さを認め合ったり感謝の気持ちを表したりする気持ちが育った。この活動以外でも、学校生活の様々な場で人の良さに目が向くようになり、児童の自己肯定感や自己有用感に高まりが見られてきている。
- 今後も、様々な教科・領域、学校生活全体を通じて、児童の「心の成長」を育めるような活動を工夫していきたい。

### 4 研究主題についてのまとめ

- 役割演技をしたり、ペアやグループで伝え合ったりする際に、積極的に取り組める児童が増えてきたと感じる。そうした積み重ねにより、道徳的価値についてよりよくしていこうという考えを導いたり、友達と共に新たな価値理解を深めたりしようという姿につながってきている。
- 研究を支える日常の取組である「道徳的心情を養う取組」によって、互い良さを認め合う目が育まれ、生活をよりよくしていこうとする姿につながってきている。
- 道徳科の時間だけでなく、学校生活全体を通じて、人と関わり合いながら自己の生き方について考えを深められるような手立てについて、さらに研究を進めていきたい。